

令和4年8月2日

斜里町議会議長 金盛 典夫 様

報告者：産業厚生常任委員 佐々木 健佑

### (調査)結果報告書

- 1 用務：産業厚生常任委員会道内所管調査
- 2 期間：令和4年7月27日(水)～令和4年7月29日(金)
- 3 調査目的と概要等：(別添 調査実施計画書のとおり)
- 4 旅程：(別添 調査実施計画書のとおり)
- 5 調査内容
  - (1) 標茶町役場
    - ・子育て支援医療費等還元事業の取り組みと成果
  - (2) 弟子屈町役場
    - ・子育て応援医療費支援事業てしかが fureca (フレカ) の取り組みと成果
  - (3) 別海町立病院
    - ・院内保育所設置の効果、子育て支援施策との連携の取組
  - (4) 厚岸町役場
    - ・職を起点にした観光戦略について
  - (5) 標津サーモン科学館
    - ・観光施設としての位置づけ、観光と漁業の連携

### 6 議員の所見等 (見た結果の判断や意見)

#### (1) 標茶町役場

子育て支援として子どもの医療費を実質無料にしている。対象は22歳まで対象としているため、大変広く対象が取られているが、高校修了後は学生に限定しているとのこと。保護者が町内に住所を有していれば、その子供が進学のために町外へ住所を移しても対象である。

医療費のうち、自己負担額を1円=1ポイントとし、500ポイントで商品券と交換できる。商品券が1枚500円のため、500ポイントから利用できるようになるという事である。現金支給はコンビニ受診やそれに伴う医療費の増加等の心配からポイント制にしたとのこと。

金券の発行額は H30・R1 が約1200万円、R2・R3 が約1100万であるが、財源としては過疎債を活用しているとのこと。

町内で使用できる賞金件として発行していることから、当然ながら域内循環に寄与しており、商工関係者からは好評を頂いているとのこと。

標茶町では、子育て支援とそれに付随した域内循環の事業を実施していた。同時に複数の効果を御たらずという視点と過疎債が活用できるという観点から、斜里町でも参考にすべきと思われる。

#### (2) 弟子屈町役場

おおまかに言うと、事業の概要は標茶町と同様であるが、弟子屈町では経済効果に視点を置いてないとのこと。「多くの町村と同様に少子化が進んでいるので、歯止めをかけるために先ずは行う」という考えから開始したとのこと。H24年に小学生を対象として開始し、H25に中学生、H27に未就学児、H28に高校生と対象を拡大してきた。

金券の発行額はR1が約950万円、R2が約850万円、R3が約920万円。

弟子屈町の取り組みは標茶町と類似しており、同世に斜里町でも参考にすべきと思われる。

#### (3) 別海町立病院

別海町立病院では院内保育所を設置しており、看護職員・その他の職員が養育する生後6ヶ月から小学3年生までの乳幼児及び児童を対象としている。設置の理由としては、子育てができる環境づくり、また、子を持つ職員を含めたシフト勤務体制が可能となり総体の勤務環境が改善されることから取り組みを始めたとのこと。

利用実績としては、利用者数に波はあるが、病院スタッフは過去10年大きな減少は無い。その一要因として院内保育所の設置があると考えているとのこと。

気になる点としては、運営に係る委託料が全額一般会計からの繰入による点。また、それに伴っていると思われるが、町民の中には「なぜ病院だけ」という声もある点。

安定して職員数を確保している実績から、効果があると考えられる。しかし、斜里町国保病院で設置を考えた場合、毎年一般会計からの繰入を受けている現状から、町民への説明と理解が重要になると思われる。

#### (4) 厚岸町役場

かつて(H3頃)の厚岸町はカキを提供するお店もなく、町内でカキを食すことができなかった。そのような事から通過型の観光になっていた。そこで観光開発計画「アクティブタウン“あつけし”プラン」を策定し、核となる魅力を「食・味覚」に置き、観光拠点施設として「厚岸味覚ターミナル・コンキリエ(道の駅厚岸グルメパーク)」を整備したとのこと。現在では存在が大きくPRされ、観光客を呼び込む魅力は十分にあり、町内を通過するだけの国道44号を走行するビジネスマンの立ち寄りの機会も増え、営業上の競合が心配される既存の町内業者への影響は、プラ

スの方向に働き波及効果となって表れている。しかしながら、H7 には約7400万円の累積赤字を抱える等大変な時期があり、黒字に転換するまでに約20年かかったとのこと。

厚岸町の観光戦略は食を起点とすることによって、商工業にも大きな効果をもたらせていた。斜里町含め他町村も取組んではいるが、厚岸町ほどの効果は無い。效用最大化の観点から斜里町においても参考にすべきと考える

#### (5) 標津サーモン科学館

サーモン科学館は観光施設として見るだけでなく、実際に触れることができる展示が多く設置されていた。当日(07/29)も家族連れが多く来場していた。観光のみならず学習もできる施設である為と思われる。また、施設の一部にはアイヌ政策推進交付金を活用し、アイヌ文化と漁業の歴史に関する展示コーナーもあり、それもまた観光と学習を兼ねた展示となっていた。

科学館では漁業振興に係る研究も多く実施しており、実際に鮭の養殖・繁殖の研究等を行っているとのこと。それらは孵化養殖事業を始め漁業資源の確保・増加に生かされている模様。展示はそれらの稚魚や幼魚の展示をはじめとして、遡上の時期になれば川の様子を直接観察できるようになっている等、観光施設ではあるが漁業に繋がる展示施設にもなっていた。

サーモン科学館は観光・教育に加え、漁業に寄与する施設であった。町立知床博物館はその役割から単純に比較はできないが、より多くの機能を持たせているサーモン科学館は今後の参考の1つになると思われる。